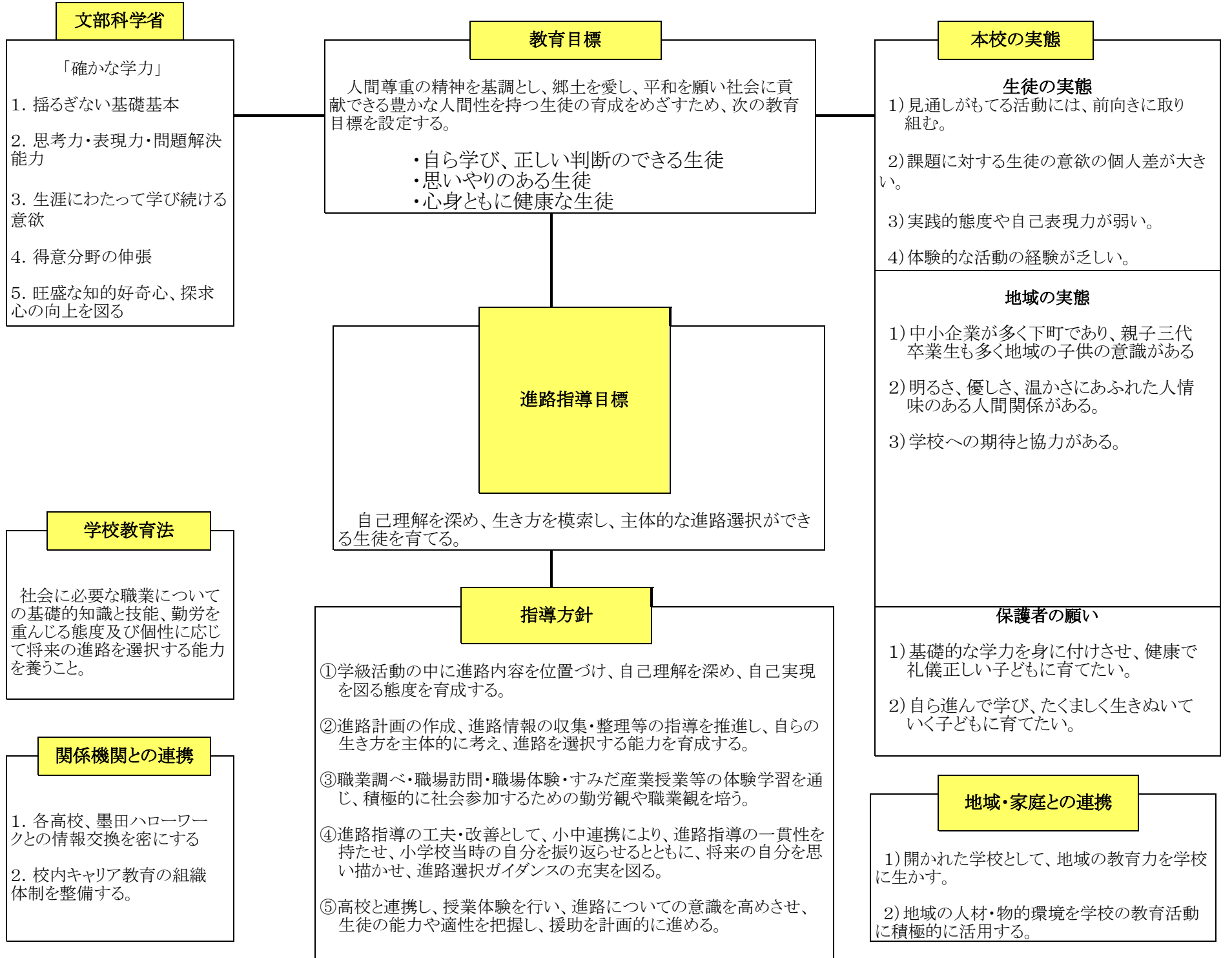


# 《キャリア教育の全体計画》

# 墨田区立吾嬬第二中学校



各学年の重点事項	
第1学年	進路への関心を高め、進路学習の見直しを持たせる。
第2学年	自己理解を深め、進路の知識や情報を得させる。
第3学年	自己実現を目指し能力・適正に応じた進路を選択させる。

各学年の重点項目				
	進路適性の吟味	進路情報の理解	職業観の形成	進路選択設
ねらい	自己理解と進路適性を吟味させる。	進路先の正確な情報を活用させる。	職業の持つ意味や価値を理解させる。	自己の生き方を幅広く考えさせる。
1年	自分を知る。	身近な人の職業 職業の世界	働くことを学ぶ目的	私の将来の進路計画を立てる。
2年	自分を見つめる。	将来の勉学の世界と機会 職業を体験する。	働く人の生き甲斐 職業と人生	私の進路
3年	自分を深く総合的に見 つめる。	先輩に学ぶ。進路先調査・体験 入学校訪問・受験の準備	働くこと、勉強することの 意義	進路設計と将来の 生活への心構え

①問題解決能力の向上に各種学力調査やPISA型読解力の結果を考察し各教科の指導の重点の見直し改善。「授業改善プラン」と生徒の授業評価を活かし分かり易くきめ細かい指導の実施。	道徳の全体計画に基づき、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的判断力と実践力を培う。	年間指導計画に基づき、望ましい集団活動の確立を目指し、集団の中で自らの生き方を考えることができる能力の育成に努める。	「年間指導計画」や「総合的な学習の時間の全体計画」に基づき、与えられたテーマの中で、生徒が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する能力や発表する能力を育成する。
②放課後や長期休業日、放課後補充クラブにより能力別補充・発展学習の実施と課題学習による基礎力向上。	①道徳の授業時間の確保に努め、資料を工夫する中で心に響かせる指導を展開する。心身ともに健康であることを基調として、よりよい生き方について自覚を深めさせ、道徳的実践力を醸成する。	①学校行事、生徒会活動、学年活動、学級活動の充実を図り、教師と生徒、生徒相互の望ましい人間関係を築き、いじめ、不登校のない豊かな人間性を備えた集団を醸成する。	①「自らの生き方を考える」を基本テーマとし、外部講師による講話や、職場訪問・職業体験など、さまざまな体験活動を取り入れ、自らの考えをまとめさせる。
③観点別学習状況の評価規準を基本に目標に準拠した評価を徹底・実践し、「個人内評価」を基に指導と評価の一体化を図る。	②教育活動全体を通して自己の生き方を深く見つめるとともに、豊かな心を育て、人権尊重の精神のもと、自他の生命を尊重し、道徳的心情と判断力を育成する。	②学級活動は、学級の中の諸問題を話し合いによって解決し、互いを認め合い理解していく態度の育成に努める。様々な体験を通じ、個性の伸長と進路や将来の生き方に主体的に取り組む能力を育てる。	②人権尊重教育推進校として年間指導計画を吟味し、調べ学習や体験学習を通して、様々な人権課題を取り上げることによって人権尊重の意識を高め、差別意識の解消を図る
④授業研究月間を設け、全教員が授業を公開し互いに研究。各教科を超えた授業の展開を図ったり、外部人材を活用した多様な授業形態を取り入れて学習意欲を高め、学びの楽しさを体得させる授業を構築する。	③保護者会や道徳授業地区公開講座において外部との意見交換の場を設け、地域の道徳的教育力を高めるとともに地域・保護者と連携した道徳教育の充実を図る。	③生徒会活動は、人権尊重の精神を浸透させる活動やボランティア活動を活発に行い、各生徒会委員会が創意工夫をした活動ができるように指導。	③地域人材、企業、外部機関を積極的に活用し、多様な人から生き方を学ぶとともに地域や社会への関心を深める
⑤英語科は外国人講師を積極的に活用し国際化に対応した人材を育成で、コミュニケーション能力を育成。		④各教科や領域との連携を図り、集団の一員として個性を生かし、自らの役割を自覚しながら諸活動に主体的に取り組む、自らの意志で将来を切り拓く創造性や意欲・態度を育成。	④自然体験や職業体験、見学、調査活動を通して社会を広く見据え、様々な場面においてコミュニケーション能力や問題解決の力を高めさせる
⑥保健体育は、男女共修のチームティーチングを実施して、基礎体力向上を目指し、運動の楽しさを体得。		⑤伝統ある学校行事の意義を理解させ、規律と秩序を重んじ、充実した学校生活を送る指導を推進。	
⑦数学科は少人数指導を通じ考えさせる力の育成を図ると共に、生活に活用できる能力の育成を図る。		⑥学校生活を、より豊かに充実するため、儀式的、学芸的、健康安全・体育的、旅行・集団宿泊的、勤労生産・奉仕的行事など体験的な活動の充実により生徒に成就感や生きがいをもたせる。	
⑧理科は学校支援指導員等を活用しチームティーチング指導を実施し実験活動により考える力を育成			
⑨各教科においてコンピュータ等の最新の教育機器を積極的に活用し指導方法の工夫を図る。			
⑩全校漢字コンテストや全校計算コンクール・スプリングコンテストを実施により基礎学力の向上。放課後学習や長期休業中の学習教室により個に応じた学習の指導時間を確保する。			

学級経営の重点
1. 生徒一人一人の個性や実態を的確に把握し、援助の機を逃さない。
2. 生徒自らが個性を発見し、主体的に自己実現を図ることができる学級経営につとめる。